

国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める請願

【請願趣旨】

私たちの暮らしや地域経済はいま、大変深刻な状況です。消費税増税と物価上昇、年金カット実質賃金低下、医療・介護などの社会保障費負担増のもとで、「これ以上節約するところがない」と悲鳴が上がっています。大規模な自然災害も相次いでいます。自治体の財政も消費税が大きく圧迫しています。

ところが政府は2019年10月の消費税10%への引き上げをあくまで行くと繰り返し表明しています。税率10%への引き上げで5.6兆円の増税となり、「軽減」分を差し引いても4.6兆円＝1世帯当たり8万円の増税という試算も出ています。このような状況で消費税を引き上げれば、税率が5%から8%になったときの大不況が再来します。

加えて税率引き上げと同時に実施を狙う「軽減税率」には、重大な問題があります。飲食料品と新聞代は税率8%に据え置き、キャッシュカード決済での還元や、自動車税、住宅ローンなどの減税の案なども出されていますが、そもそも消費税は、所得の少ない人ほど負担が重く、貧困と格差を拡大する根本的な欠陥をもつ税制です。

日本国憲法は応能負担原則に則った税制の確立を要請しています。

消費税増税ではなく、税金の集め方、使い方を見直し、大企業や富裕層を優遇する不公平税制をただすべきです。軍事費や不要不急の大型公共工事への歳出を減らし、暮らしや社会保障、地域経済振興優先に税金を使い、内需主導で家計をあたためる経済政策をとるべきです。そうすれば、社会保障制度の拡充も、財政再建の道も開かれます。

私たちは、住民の暮らし、地域経済、地方自治体に深刻な打撃を与える消費税増税を中止することを強く求めます。

以上の趣旨から下記事項について請願いたします。

【請願事項】

- 一、2019年10月の消費税率10%への引き上げ中止を求める意見書を政府に送付していただくこと